

授業科目	開講期	開講年次	単位数	時間数	講師
診療の補助技術	後期	1年次	1	30	岩瀬

授業概要

患者が安心して安全・安楽に診療を受けられるように、診療の目的を理解し、診療や検査・治療に伴って実施する基本的な援助技術を習得する。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	自己の受診行動を振り返る	看護師が行う診療の補助 (1)診療の補助とは何か (2)診察に伴う援助 ①診察とは何か ②診療における看護師の役割 ③診察の介助	講義	復習
2	該当する教科書の範囲を読んでくる	看護師が行う診療の補助 (3)検査に伴う援助 ①検査の目的・種類 ②検査における看護師の役割 ③検査時の介助	講義	復習
3	生体検査の文献を検索しておく	看護師が行う診療の補助 (3)検査に伴う援助 ①検体検査の採取(血液・便・尿・痰) ②直接検査の介助 (レントゲン検査・造影剤検査・内視鏡検査・生理機能検査等)	講義	復習
4	該当する教科書の範囲を読んでくる	症状・生体機能管理技術 (1)症状・生体機能管理技術とは何か (2)症状・生体機能管理技術の目的 (3)症状・生体機能管理技術の看護師の役割	講義	復習
5	該当する教科書の範囲を読んでくる	看護師が行う診療の補助 (4)治療に伴う援助 ①治療の目的・種類 ②治療における看護師の役割 ③治療時の介助	講義	復習
6	授業の復習	1. 診察を受ける患者の安全・安楽を考える 2. 検査を受ける患者の安全・安楽を考える (1)検体検査の実際 ①検査の説明 ②尿比重 ③採血 (2)検査時の介助 ①検査時の体位(腰椎穿刺・直腸診)	演習	復習
7	血管・神経の走行を確認しておく	1. モデル人形を使って静脈血の採取(採血)の実施 ①針と注射器の接続 ②針の処理法 ③駆血帯の使い方	演習	演習後の感想を提出
8	講義資料を読んでくる		演習	

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
9	該当する教科書の範囲を読んでくる	与薬法 (1)与薬の目的・種類 ①経口的与薬法 ②口腔内与薬法 ③直腸内与薬法 ④塗布・塗擦法・点鼻、点眼、点耳 ⑤静脈内注射法 (2)薬物の吸収機序・薬物の副作用 (3)実施上の注意事項	講義 演習	「注射事故」 「誤薬事故」 の事例をもとに看護の 役割と責任 についてレ ポート提出
10	該当する教科書の範囲を読んでくる		講義 演習	
11	講義資料を読んでくる	経口的与薬法・直腸内与薬法の実施	演習	復習
12	該当する教科書の範囲を読んでくる	注射法 (1)注射法の目的・種類と部位 ①皮内注射 ②皮下注射 ③筋肉注射 ④静脈 内注射 (2)注射法実施時の注意事項	講義	復習
13	講義資料を読んでくる	注射法 (1)点滴静脈内注射 ①輸液セットの接続方法 ②輸液管理三方活栓 の取り扱い ③固定法 ④輸液ポンプの取り扱い (2)静脈内注射 ①アンプルカット・アンプルからの吸い上げ	講義 演習	復習
14	筋肉内注射に適した筋肉を復習しておく	モデル人形を使って皮内・皮下・筋肉注射の実施	演習	復習
15	講義資料を読んでくる	モデル人形を使って静脈内注射の実施 (1)点滴静脈内注射の実施 (2)静脈内注射の実施	演習	復習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。			
教科書	医学書院:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護学技術Ⅱ メディックメディカ:看護技術がみえるvol. ① 臨床看護技術			

授業科目	開講期	開講年次	単位数	時間数	講師
基礎看護学技術演習Ⅱ	後期	1年次	1	30	山崎 小川

授業概要					
事例を用いて、対象の治療・処置に必要な基本的な技術を習得する。					
回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習	
1	看護過程の復習をしておく	1. 授業目的についてオリエンテーションの実施 2. グループの発表と事例の提示 3. 事例の説明(看護過程で用いた急性期・回復期にある肺炎の患者) 4. 必要な援助	オリエンテーション	援助内容の作成	
2	基礎看護学技術演習Ⅰの事例を復習しておく				
3	援助内容(NEB)を提出する	1. 患者の状況から、必要な援助を考える 1) 肺炎患者に必要な検査・治療・処置は何かを考える (1)検査:①採血 ②レントゲン撮影 ③喀痰検査 (2)治療:①超音波ネブライザー ②酸素吸入 ③持続静脈内注射(点滴) 2) 患者の状況から、必要な援助を考える 3) 毎日の記録の用紙に援助内容を書く ①行動目標 ②行動計画 ③援助内容	演習	援助内容の修正	
4	援助内容(NEB)を提出する		演習	援助内容の修正	
5	援助内容(NEB)を提出する		演習	援助内容の修正	
6	援助内容(薬物療法)を提出する	1. 実践を通して行動計画を修正しながら患者に適した援助内容にする 1)優先順位や援助の実施時期や援助の所要時間を考慮する 2)患者の心理を理解し、適した態度や言葉づかい、言葉がけを考える	演習	グループで話しあい、練習する	
7	援助内容の修正を提出する		演習	グループで話しあい、練習する	
8	援助内容の修正を提出する		演習	次回の援助内容の作成	
9	援助内容(創傷処置)を提出する	1. 他のグループの学生が患者・観察者となり、援助内容を評価する 1)患者役は患者になりきり、看護師の態度や言葉づかい、言葉がけに対して評価する 2)優先順位、援助の実施時期、援助の所要時間を評価する	演習	グループで話しあい、練習する	
10	援助内容の修正を提出する		演習	グループで話しあい、練習する	

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
11	援助内容(酸素療法)を提出する	1. 実践を通して行動計画を修正しながら患者に適した援助内容にする 1)優先順位や援助の実施時期や援助の所要時間を考慮する 2)患者の心理を理解し、適した態度や言葉づかい、言葉がけを考える	演習	グループで話しあい、練習する
12	援助内容(創傷処置)を提出する		演習	グループで話しあい、練習する
13	援助内容の修正を提出する		演習	次回の援助内容の作成
14	援助内容の修正を提出する	1. 他のグループの学生が患者・観察者となり、援助内容を評価する 1)患者役は患者になりきり、看護師の態度や言葉づかい、言葉がけに対して評価する 2)優先順位、援助の実施時期、援助の所要時間を評価する	演習	グループで話しあい、練習する
15	援助内容の修正を提出する		演習	グループで話しあい、練習する
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・実技試験で総合的に評価する。			
教科書	教科書はとくにはないが、医学書院の基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ、メディックメディアの技術が見える・フィジカルアセスメントがみえるなどを使用する。 また、共通基本技術、日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント、診療の補助技術といった授業資料を参考にする。			